

## 僅か1日のタイ採集紀行

相坂 耕作

エメラルド寺院で有名なタイへ僅か1日であるが訪れ、採集や資料等を探し出すことができたので報告しておきたい。筆者にとっては10年以上も前にいったフィリピン以来の東南アジアへの旅である。虫友の壺坂氏と1昨年、中国上海へいってから機会がなかったので今回何とか行こうということになった。しかし、壺坂氏も会社のNo.2の重職であり、筆者もこの度、工場の移転がからみ30年ぶりに新工場を新設するという重要な時期となっているので双方ともあまり休暇がとれず、それを無理して訪問したわけである。

通常タイのバックツアーは5日以上が多いのだが、大阪にある旅行会社"旅のデザインルーム"というのがあり普通にはない3日や4日のツアーがあった。しかし、1日目が午後便になっており着くと夜遅くなり寝るだけとなり、中1日だけの旅行となってしまふ。そこで追加料金を払い午前便に振り替えてもらい出発することとなった。なお、この旅行には筆者と同じ企業の経営者である小池社長も同行した。

### タイの味をもとめて

7月12日 新幹線と関空特急はるかに乗車し、9時少し前に関西空港に到着した。受付まで時間があるのでミネラルウォーターを買いこんだり喫茶店で時間をつぶし日本航空・タイ航空共同運航便JL623便(A330)にて関西空港を出発したのは、午前11時45分であった。タイのドンムアン空港に到着したのは3時30分(日本時間5時30分)となっていた。時差は2時間であり、5時間45分飛行機に乗っていたわけである。税関等で諸手続を済ませ、出たところで無理矢理?両替をさせられ、出たところで現地案内人が待っていてくれた。早速マイクロバスに乗車、クーラーをがんがん利かせ一路宿泊ホテル"シェラトン"へ。タイでは超一流

であり、バンコクで最も贅沢といわれるホテルという。しかし、世界一の渋滞名所バンコクである。ホテルに着いたのは5時半も過ぎていた。ひとまず部屋に入り案内人と6時に待ち合わせ、長時間の渋滞を覚悟して夕食を食べに行くこととなった。案内されたレストランで食べたものはタイ風のいわゆる"しゃぶしゃぶ"だった。美味しいことは確かだが、タレが辛く筆者の口には合わなかった。後に醤油のタレを持ってきてくれたので、やっと口におさまった。やはり暑い国なので辛く腐りにくくすべてのものになっているものと思われる。食事後タクシーにてホテルへ送ってもらい、ホテルの売店にて各自ショッピングとなった。筆者も"虫グッズ"を物色したが、標本の額入りや昆虫標本を樹脂で封入したものが多く目についたが買う気持ちになれなかった。やっと目についたのが壁掛けのチョウ工芸品である。以前求めた中国製品より造りがしっかりしていた。また、びっくり木の実も買いこんだ。一体この木箱に入った虫はこの国で作っているのだろうか?日本でも売っているし、中国でも見た。インドネシアからの輸入とも聞かしく、マレーシアの土産でも戴いた。

明日の採集を楽しみにホテルの各部屋に分散し寝るのみとなった。

### バンコクとアユタヤにて昆虫採集

7月13日 タイ時間8時に朝食をホテル内のレストランにてとる予定だったが、早く目が覚めたのでホテル付近を物色し、花壇の花にきたミツバチ風のアブを撮影したり採集し時間を潰しやがて朝食をとった。前日の打ち合わせでは9時に前日の案内人が来る予定であったが、ツアーの市内観光をキャンセルしている関係で代りの女性案内人が来た。そして9時30分にしてほしい旨の連絡があり、待っていた。しかし、案内人は遅くなり、

そのうえ移動車が渋滞のため来ないという。7時に会社を出発したというのに……。車を待っていてもらいがあかず諦めてホテルタクシーにて移動することになった。その時はすでに11時頃となっていた。壺坂氏が一生懸命に昆虫のいそうな環境へ連れて行くように言うのだが、案内人と運転手は頭を抱えこんでしまい困っている。仕方がないのでアユタヤ(タイがシャムとよばれていたころ日本人町があったところで山田長政が有名)方面へ出発し、適当に採集することにした。走りだして30分くらいすると線路沿いに水溜まりがあり、チョウが飛んでいるのが目につきました。車を止めてもらい見てみると多くのトンボやチョウが飛んでいる。早速壺坂氏はカメラを取り出し撮影。筆者も補虫網をセットするまではよかったが三角紙がないのに気が付いた。仕方がないのでチャック付きのポリ袋(カタツムリの採集用)を利用し応急三角紙にした。ここではトンボ科の小型種とショウジョウトンボ、アジアイトトンボ、また目撃種としてコモンハネビロ、小型のヤンマ等を見た。チョウはシロチョウ科が多く、マダラチョウの仲間やタテハモドキの近縁種が見られた。その場所は線路のそばであり汽笛をならされたりしてヒヤヒヤ採集したが、後で写真をみるとドンムアン空港の前であった。

筆者の求めているタイの蚊取線香はまだ入手出



バンコク市内にはユミボン国王の肖像画が多い

来ていないので何とかコンビニエンスストアでも寄ってほしいと希望し、やっと入手出来た。アユタヤ方面に行くまでに4カ所くらい止まっただろうか種々の昆虫を撮影もしくは採集して、やがてアユタヤへ。遅い昼食をとるべくレストランへ。そのレストランは外国人は余りこないらしく我々のしている動作を珍しそうに見いつている。食事後アユタヤの日本人町を観光したりショッピングしたりして夕方宿泊ホテルに帰着した。夕食はこのホテル自慢の日本料理を食べ僅か2日目で懐かしんだ。

たいした土産も買っていないのでホテル横のリパーシティへ出掛け各自ショッピングを楽しんだ。筆者はあらゆる機会にタイの虫凧を収集すべく物色してきたし、現地案内人にもお願いしてみたが、凧など売っているところは知らないとの返事であった。それが、目の前のショッピングセンターにて売っているではないか。そこにはタイの工芸品や特産品などが多く売っている。タイ式の和紙なども販売しており、小池、壺坂の両氏も買い求めていた。

#### すぐに帰国へ

現地時間5時15分に起床し、6時00分にホテルのバイキングにて朝食をとり、直ぐホテルを出発し、7時前にはドンムアン空港に到着していた。世界一の渋滞都市バンコクでも日曜日の早朝は例外で車もスムーズにはしる。9時15分定刻に日本航空・タイ航空共同運行便のDC10は離陸した。

今回筆者の求めたいコレクションの蚊取り線香と虫凧も入手でき、まずまずの成果があったと思う。ただ残念に思うのが採集のため観光地に十分な時間がとれなかったことである。しかし、それは車にて走行していたら感覚的にタイを覗いているのと同じように思うので、今回はこれでよかったのである。尚、今回の旅行では壺坂孝一氏と小池積氏に大変お世話になった。心より感謝申し上げます。



<写真説明>

1. ショウジョウトンボ♂    2. ヒメキトンボ♂    3. ネグロトンボ♀    4. 吸蜜するインドホソチョウ  
 5. 吸蜜するジャノメタテハモドキ    6. 樹上で翅を休めるハレギチョウ    7. 採集地にて(筆者)  
 8. ホテルから見たチャオプラヤ川とバンコク市内